

岩舟屋 代表取締役 まつざき としはる 松崎 利春 氏

## 101年続く古町の老舗として 育ててくれた地域を盛り上げたい



### PROFILE

1960年生まれ、新潟市出身。新潟明訓高校を卒業後、東京の御茶の水美術専門学校で3年間、研究課程で1年間、絵画の技法を学ぶ。卒業後、家業である岩舟屋に入社。30年程前に代表取締役に就任。その他、新潟中心商店街協同組合 専務理事、新潟古町まちづくり株式会社 取締役として、街の活性化事業などに取り組む。また、古町芸妓を描いた絵がビールのラベルに採用されるなど、画家としても活動中（光陽会会員）。

今年で創業101年を迎える時計・宝飾の専門店、岩舟屋。老舗としてお客様の信頼に応えながら、時代に即した洗練された商品、きめ細やかなサービスを提供しています。3代目であり、古町の活性化にも長年取り組んでいる松崎代表にお話を伺いました。



岩舟屋

〒951-8063

新潟市中央区古町通6番町964

TEL : 025-228-0036

<http://www.iwafuneya.com>

ジュエリーのオーダーメイドやリフォームは、お客様がイメージしている形を120%叶えたいという気持ちで、常に取り組んでいます

### 岩船屋から岩舟屋へ。 新たなイメージにリニューアル

岩舟屋は大正11年、初代が新潟市横七番町で時計店を開業したのが始まり。昭和4年頃に古町へ移転して以来、地元根差してきた同店は、令和元年5月にリニューアルオープンした。「創業からの屋号“岩船屋”は祖先が岩船郡出身ということで、いただいた屋号。リニューアルにあたり、小さいけれど小回りがきく舟のような店にしたいという意味も込めて“岩舟屋”に変えました。内装も舟をイメージし、ギャラリーのように商品を見ていただく展示方法にしています」と松崎代表。時計・宝飾業界では珍しいドアのない開放的なエントランスとなり、商品は全国で7店のみの取り扱いとなる「雫石高級時計工房」の機械式腕時計をはじめ、ダイヤモンドジュエリーで人気の高い2つのブランドが新たに加わった。

### お客様への丁寧な説明を大切に。 オーダーリフォームも好評

101年にわたり商売を続けてきた同店では、「丁寧な商品説明、商品選び」を何よりも大切にしている。「お客様に嘘をつかないこと。例えば、ダイヤモンドは実際にお客様に見ていただきながら、ダイヤの中の不純物や色の違いなどを説明します。遠回りでも根気強く、丁寧に商品を紹介しないといけないと思います」。

また最近では、家族から譲り受けたり、使っていないジュエリーを新しい形に生まれ変わらせるオーダーリフォームが好評。松崎代表自らデザインを担当し、実寸大に描いたデザイン画と拡大図、



チューリップをモチーフにした岩舟屋オリジナルのペンダント。今後はオリジナル商品の充実も図っていききたいという。

日本最高峰の技術を持つといわれる「雫石高級時計工房」など、国内でも取り扱いが珍しいブランドを揃えている。



3Dなどを作成して、お客様が完成品をイメージしやすいようにしている。

### 商工会議所と連携しながら 地域の活性化を図りたい

「商工会議所さんは、商店街活動や街の活性化事業には欠かせない存在。これまで古町音楽祭や古町芸妓のPRなども商工会議所の支援があったからできたので、今後も連携して取り組んでいきたいです」と話す松崎代表は、新潟中心商店街協同組合の専務理事でもあり、アートを通して古町の活性化を目指す「Rene challenge (ルネチャレンジ)」の実行委員長も務める。「空き店舗が目立ってきた古町の印象を、アートの力で変えたかった。若いアーティストが表現する場がないという声も聞いていたので、ここに繋がられないかという思いもありました」というように、このアートプロジェクトでは現代美術家をはじめ専門学校の学生が制作した作品や子どもたちの絵も展示され、街に彩りをもたらしている。

今後、岩舟屋ではオリジナルデザインの商品にも力を入れていきたいという松崎代表。古町の老舗として地域との連携を深めながら、新しい時代に向けて舟を進めてゆく。



今年で3年目を迎えるアートプロジェクト「Rene challenge (ルネチャレンジ)」。古町6番町の空き店舗前に展示されている木彫の「タマ公」は、アーティスト・藤浩志氏作品。